

島から動物が移されている。時代の異なる動物が
一緒にいる。ホモ・エレクトスの動物群像である。
に合わせた動物で動物の姿を導いたらしい。この
動物群像を拡大させた動物が、りやう島まで移殖して



フローレス島にいた動物たち

- 縮小化したゾウのなかまビグミー・ステゴドン
(*Stegodon Baramas insularis*, ホモ・フロレンシエンシスと同時期に絶滅)
- 巨大化したハグゴウのなかま
(*Ungabala robustus*, ホモ・フロレンシエンシスと同時期に絶滅)
- 巨大化したラット
(*Papapomys armandvillei*, 現生種)
- コモドオオカゲ
(*Varanus komodoensis*, 現生種)
製作協力: Gert D. van den Bergh, Harrold J.M. Meijer

ホビット **原**
2003年にインドネシアのフローレス島で発見された、
小型原人ホモ・フロレンシエンシス。小説指輪物語の
小人たちになぞらえ、ホビットと呼ばれる。華やかな
動物たちのいる島へ、いつどうやって渡ったのか？
体も脳も、ここまで小型化したのはなぜか？ 1万
数千年前まで生き残ったあと、どうして消えたのか？
謎はつきない。

2023

6

June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5

1 2 3 4 5 6
7 8 9 10 11 12 13
14 15 16 17 18 19 20
21 22 23 24 25 26 27
28 29 30 31

7

1
2 3 4 5 6 7 8
9 10 11 12 13 14 15
16 17 18 19 20 21 22
23 24 25 26 27 28 29
30 31

長年におよぶ調査で得られた化石や石器という証拠を、解剖学と考古学の知識にもとづき比較研究することによって、身体の特徴や精神活動が推測され、さらに想像力を加味して復元が完成します。地球館地下2階では、猿人・原人・旧人の復元像を展示しています。